

授業科目名 <英訳>	東洋社会思想史Ⅰ The History of Eastern Thought I		担当者所属 職名・氏名	人文科学研究所 特定助教 目黒 杏子			
群	人文・社会科学科目群	分野(分類)	哲学・思想(基礎)		使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義
開講年度・ 開講期	2018・前期	曜時限	木3	配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]							
<p>テーマ：中国古代における儒学の歴史</p> <p>本講義では、中国古代における儒学の歴史を概説し、それにより東アジア地域の学術や文化に多大な影響を与えた中国の儒学に対する基礎知識を習得する。</p> <p>儒学とは基本的に、「五経」などの古典文献の研究を基礎とし、そこから得られた知識や理念を政治において実践しようとするものである。紀元前6世紀頃に孔子によって形成された儒学は、古典にみえる倫理や身分秩序（「礼」）を重視する特徴を持ち、やがて漢代に皇帝を戴く政治体制と強く結びついて以降、中国社会における枢要な学術として、20世紀初頭の清朝崩壊に至るまで持続的に発展していった。このような儒学の内容と展開に対する理解を深めるためには、儒学が生まれ、成長した時代背景に対する知識が必要である。</p> <p>そこで本講義では、儒学の歴史の中でも、とくに大きな山場である先秦～秦漢時代の儒学の形成過程に重点をおいて、思想の内容と政治、社会との関わりを中心に解説する。儒学の理解を通じて、中国の歴史や文化について考える基礎を築く。</p>							
[到達目標]							
儒学とその歴史を学ぶことを通じて、中国の思想や学術、それを生み出した固有の社会のあり方に対する理解を深め、中国の歴史と文化を理解するための基礎知識を習得する。							
[授業計画と内容]							
<p>第1回は、講義の主旨の説明や参考文献の紹介などのガイダンスにあてる。第2回以降、以下のテーマについて各3回程度にわけて解説する。</p> <p>儒学成立前史 ... 儒学成立の前提となる政治や社会の形成について解説する。新石器時代の中国における多様な文化圏や社会の形成や、政治的中心となる王朝の成立（夏・殷・周）が中心となる。</p> <p>儒学の形成と諸子百家 ... 孔子による儒学の形成とその内容、及び他の思想との関係について、春秋戦国時代から統一秦帝国の出現までの間の政治や社会の変革とともに解説する。</p> <p>秦・前漢時代の儒学 ... 皇帝の統治する中国の誕生に際して、儒学がどのように自らを変革し、他の多様な思想・学術を抑えて政治をになう中心的な地位を得たのかを解説する。</p> <p>後漢時代の儒学 ... この時代に確立する儒学の基本的なスタイルや、新しい潮流の発生とその展開について、漢王朝の興亡と社会の変化とともに解説する。これを布石として、次の魏晋時代以降における新たな展開にも言及したい。</p> <p>第15回は期末試験を行い、学習到達度を評価する。 第16回のフィードバック方法は、講義において別途伝える。</p>							
----- 東洋社会思想史Ⅰ(2)へ続く -----							

東洋社会思想史Ⅰ(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点と定期試験（筆記試験）によって評価する。両者の比率はおおむね50%ずつとする。平常点は、不定期に実施する小テストの得点に、小テストの受験回数に応じた得点を加えて算出する。小テストと定期試験には、いずれも授業の内容に関する筆記問題を出し、理解度をはかる。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

授業中に紹介する

授業中に参考資料を適宜配布する。

【授業外学習（予習・復習）等】

講義の後、基礎的な用語の意味や内容、他の用語との繋がりなどを確認することを通じて、各自の知識として定着させることが望ましい。

【その他（オフィスアワー等）】

とくにありません。講義後に質問を受け付けますので、わからなかった点などあればなんでも質問してください。